

# 明日香をさぐる

## 高松塚古墳 深化する研究

高松塚古墳壁画の発見により様々な学問分野が協力して研究しています。

日本で初めて発見された高松塚古墳壁画は、考古学や古代史、美術史などの学問に多大な影響を与えました。そして、文化財を後世に守り伝えていくための保存科学・修復技術を学ぶ文化財学の研究にも大きな進歩をもたらしました。近年では、古墳壁画の恒久保存対策事業にもなって石室の解体や壁画の修復にも最先端の科学技術が援用されています。高松塚古墳は築造当初から令和まで多くの人の手によって守り伝えられてきました。約千三百年の間、古墳に費やされた最先端技術が現代の世に結晶となって、今こうして多くの人の目に驚きと感動を与えています。

高松塚古墳壁画は中国大陸の唐や高句麗など東アジアの影響を大きく受けています。高松塚の人物像の顔や服装、壁面四方に描かれた星獣の四神など壁画の内容を理解するためには、東アジアの壁画との比較研究が欠かせません。一方、壁画の下地である漆喰に絵を描く技法は、西洋のフレスコ画の技法と相通じています。高松塚の古墳壁画を理解するには世界規模の比較研究が求められています。近年、日本の文化財は、大雨や地震などの自然災害により危機に直面しています。高松塚古墳にもこうした自然災害の爪痕がみつ

かっています。石室解体に伴う発掘調査では、硬い古墳の盛土を突き破る亀裂が多数見つかりました。これは古墳が造られた以降に起きた大地震により古墳の盛土がひび割れたことによるものです。このように遺跡に残る地震の痕跡を研究する地震考古学は、地震多発国日本において防災の観点からみても欠くことができない研究分野といえます。高松塚古墳壁画の発見はその歓喜とは裏腹に新たな問題を喚起しました。日本人がはじめて出会った壁画をどのように保存していくのか。壁画を発見時のまま保存するため、壁画発見直後から考古学や歴史学、美術史のほか保存科学や土工学、生物学など様々な分野による調査研究がこれまで行われてきました。こうした科学調査は、近年の壁画恒久保存対策においても発揮されました。近年の電子機器やデジタル科学技術の発展は、高松塚古墳壁画の科学的調査でもいかに発揮されました。薄さ3ミリの漆喰層の状態を観察したり、飛鳥美人などの凶像の大きさを触ることなく計測したりすることが可能となりました。また石室の壁石がわずか1〜1.5度

の傾斜をつけて意図的に加工していることなど、状態が優れない文化財を直接手で触れることなく、より詳細に、より精緻な情報を得ることが可能になりました。高松塚古墳壁画の発見により、日本における歴史学・美術史の研究の進展のほか、世界の共有財産である壁画を調査・研究・保存するために世界規模での研究者の交流、そして様々な分野が協力する学際的研究が深化していくことになったのです。

(明日香村教育委員会文化財課)

